

研究課題	I C T活用による市立商業高校の強みを活かした地域貢献の進化をめざして
副題	～実社会で通用する実践力をめざした思考力・判断力・表現力の育成～
キーワード	I C T活用 タブレット端末 地域貢献 ビジネスシーン
学校/団体名	出水市立出水商業高等学校
所在地	〒899-0131 鹿児島県出水市明神町200番地
ホームページ	http:// www12. synapse. ne. jp/ izumisyo/

1. 研究の背景

鹿児島県出水市の市立商業高校である本校は、これまで出水市の協力のもと、地域に対する様々な貢献活動を展開してきた。地元出水の様々なイベントに、授業や部活動、生徒会活動などを通じて参加したり、小中学校に対し出前授業を実施したり、「読書活動日本一のまちづくり」を目指す出水市の取り組みに対し本校図書委員会を中心とした積極的な活動を展開するなど市立の強みを活かした継続的な活動をしている。更には、本校独自の行事である「出水商業デパート」を毎年10月後半に開催し、来店される地域住民の方々に好評を頂いている。この「出水商業デパート」は、生徒が主体となり、本校体育館や校内の敷地を利用し、販売実習を行う。事前の打ち合わせから、販売実習に向けた準備、当日の店舗の運営、後日の決算処理に至るまで各クラス担当職員の指導のもと、全校生徒で取り組んでいる。もちろん、販売以外にも、デパート実行委員会（商業デパートの中心となる委員会）やフードコーナー、イベント、駐車場、放送など様々な係に分かれて活動している。生徒の明るく元気で、積極的かつ丁寧な接客態度が好印象である。また、小学校においてプログラミング教育が導入されることを受けて、平成30年12月に小学生向けのプログラミング教室を実施した。当日は生徒が講師となり、小学生とその保護者総勢40名近い参加者があり、簡単なプログラミングの実習であったが、参加者からは大変良かったと好評を博した。

このように、本校では、出水市から支援協力を頂き、地域貢献を目指した活動を継続しており、今後更に地元出水市や近隣の市町村に対し、地域貢献の様々なアプローチをかけていこうと考えている。

(商業デパートの様子)



2. 研究の目的

近年のスマートフォンやタブレット端末の爆発的な普及により、I C Tが身近なものとして感じられる今日であるが、本校のパソコンやI C Tの環境については、学校情報化の現状の調査においてもまだまだ低い方である。上記の背景にもあるとおり、本校は地域貢献の様々な活動を展開している。そこで今回、本実践研究助成を受け、次のような目的を設定する。

- ① 「出水商業デパート」において、I C T活用によるビジネスシーンを展開し、実社会で通用する実践力をめざし、生徒の思考力・判断力・表現力を育成する。
- ② 小中学校への出前授業や授業・行事において地元企業との連携について、I C Tを取り入れた活動を行い、地域貢献の発展・進化を目指す。
- ③ 校内でI C T機器の活用による授業改善を図り、主体的・対話的で深い学びをめざす授業

を研究する。

総じて、生徒がICTを身近に感じ、校内での様々な場面で有効活用させ、高校卒業後、実社会において積極的にICT活用を図る人材の育成をめざして取組を展開したいと考えた。

3. 研究の経過

(購入したタブレット端末)

ICT活用の主なものはタブレット端末（OSはアンドロイド）とした。まず端末本体の購入も必要であるが、端末をネットワークで接続する環境を整えなければならない。それゆえ新たに校内にタブレット専用のwifi環境を構築することになった。4月の段階で生徒校舎全体の通信をカバーする作業が済んだ。



これにより、購入したタブレット端末を用いて、授業などで活用できるようになった。次に8月には体育館

や、生徒校舎とは別の職員室や特別教室がある棟に追加で構築した。これによって、特別教室や体育館での授業や、ネットワークを介して商業パートでのタブレット活用ができる環境を整えた。なお、タブレット端末は4月に10台購入し、授業でも1クラスで生徒4～5人に1台は割り当てられるようにした。活用方法としては、インターネットによる調べ学習、教材の静止画撮影、プロジェクタによる表示、プレゼンテーションソフトで発表内容を作成するなど、グループでの活動に利用できる実践例があげられた。特に実技を伴う授業では、その場で動画撮影したものを大きく紹介することもでき、静止画や動画で残した記録は、授業内容の確認やその後の振り返りなどにも効果的であるとの声が聞かれた。

また、タブレット端末に関連して、必要な機器を購入した。短焦点型のプロジェクタ、無線LANユニット、折り畳みスクリーンその他、細かいところでは、タブレットのカバーや充電用の電源ケーブルもそろえた。一方、作成したデータや動画・静止画データを保存しておく場所として、ネットワークハードディスク（NAS）と、管理用のノートパソコンも併せて購入した。動画・静止画の量が増えてくると、端末1台の記憶容量では対応できなくなる。導入初期に必要なものとして購入・設置した。

ここで実際に活用した内容を時系列で紹介する。

- 5 月 全職員を対象とした、「タブレット端末活用研修会」を実施。
- 6 月 授業で本格的な活用を開始。
- 6 月 国体リハーサル大会が出水市で行われ、本校生徒が地元菓子店に協力し、販売ブースを設置。大会に来場された選手・スタッフ・観客の方々にタブレット端末活用の商品紹介。
- 9 月 商業パートにおいての活用として、タブレットを2クラスに先行活用。その他、店舗や校内の案内図、アンケート調査、レジアプリを利用した商品の在庫管理（1クラスに依頼）、ロボット体験コーナーのアプリ用などの計画。
- 11月 後半に鹿児島県の家庭科教育学習指導研究会が本校で実施され、本校職員による研究授業において、タブレット端末の効果的な活用。

4. 代表的な実践

様々なICT活用の中からはタブレット端末の活用に着目して、次のとおり商業パートに関する取り組みと、研究授業に関する実践を具体的に紹介する。

- (1) 令和元年6月8日、9日に、出水市総合武道館の弓道場にて「燃ゆる感動かごしま国体競技別リハーサル大会（弓道）」が開催された。この大会で販売ブースを設ける地元菓子店「ふく鶴むなかた」さんより協力依頼があり、本校の授業「課題研究（産業現場実習）」の生徒を、この販売ブースのお手伝いに参加させた。事前に打ち合わせをし、販売商品の写真、商品名、値段を大きく表示したデータを作成した。

(パッケージと中身を紹介)

写真のように、パッケージに入った状態と、中身を見せた状態の写真を組合せ、値段と商品名を大きく記載し、データ自体はPDF化して、タブレット端末へ保存した。



当日は、全部で3種類の商品が登場し、写真のようなデータをタブレットで紹介しながら、お客様の購買意欲の向上につながるよう活動した。お客様にはアンケートにも回答頂き、次のような内容であった。

- ①タブレットによる商品紹介は良かった。
- ②高校生の対応がよく分かりやすかった。

その他、ほとんどの方から同じような好意的なご意見を頂いた。また、タブレットの活用に関して「伝えるではなくて、紹介してほしい」といったもっとこうしたら？という前向きな意見を頂いた。参加した生徒にもアンケート調査を行い、次のような意見を出してくれた。

- ①商品が手元に無くても、タブレットで紹介できるからいろんな場所で宣伝できる。
- ②聞くだけよりも実物の写真などを見る方が頭に残ると思う。
- ③商品の中身まで見せることができたので、お客様は真剣に見て聞いてくれた。



まとめると、実物をいくつも持って歩き回って紹介することよりも、タブレット端末1台で全ての商品の紹介ができるよう準備しておけば、それだけでもお客様への効果があると生徒自身が感じてくれたと思われる。このような実践現場で得た貴重な体験を秋に開催予定している商業パートでの実践発表に活かしていきたいと考えた。

(タブレットによる商品紹介の様子)

- (2) 令和元年11月3日（日）の出水商業パートに向けて、タブレット端末の活用計画を9月初めに全職員に具体的に提案し、共通理解と研究推進を図った。その内容について下記に紹介する。

● 出水商業パートにおけるタブレット端末の活用について

- ア. タブレット本体 10台
- イ. w i f i 環境設備 ①体育館周辺 ②本館1, 3F ③生徒棟教室周辺

ウ. 活用計画

①指定店舗でのタブレットによる商品紹介（2店舗2台ずつ）

- ・パワーポイントやPDF化したデータをお客様に見せながら紹介する。
- ・動画、スライドショーによる、商品や店舗に関連する映像の紹介。

②デパートの店舗案内（2台）

- ・生徒デパート実行委員会による、デパートの店舗案内。パワーポイントで作成したデータで各店舗を簡単に紹介し、各店舗に対する興味を持ってもらう。
- ・地図データによる場所の案内や抽選会の時にビンゴのアプリを使用する。

③アンケート（2台）

- ・お客様アンケートをタブレット端末で実施。グーグルフォームによりアンケートのフォームを作成。紙媒体も同時に扱う。QRコードを作成し、お客様自身のスマートフォンで答えてもらう環境も準備した。

④ロボット（1台）

- ・プログラミング学習用ロボットの体験（スフィロ）

●活用計画に基づく具体的な取組について

活用計画①について、事前の企業との打ち合わせに、担当職員・生徒が赴き、販売商品の静止画や、企業の担当者からのコメント・販売商品の製造工程の動画撮影で活用した。その後、素材を加工し、タブレット上で、分かりやすいPDFデータや動画等を作成した。

活用計画②の店舗案内については各店舗より、店舗紹介の文面と静止画データを2～3枚頂き、それをもとに担当生徒で作成させた。地図データは、商業デパートの会場案内図をそのままタブレットにPDFで保存した。

活用計画③についてはアンケート自体は担当職員で作成し、生徒にはその使い方を学ばせた。

活用計画④については、前年度に本校で購入したプログラミング学習用ロボット「スフィロ」の体験コーナーを設け、特に小学生や小さなお子様にタブレットを触らせて、ICTに対する興味関心を持たせる機会とした。

(左から、グーグルフォームによるアンケートデータ、商品紹介・店舗紹介のデータ)



- (3) 令和元年11月3日（日）の出水商業デパート当日の様子について紹介する。当日は2,500名近い来店があり、9:30の開店から閉店の15:00まで大変賑わった。タブレットを活用した商業デパートのICT化に向けた一歩となった。商品・店舗紹介は担

当の生徒が、積極的にお客様にアプローチをかけ、タブレットを見せながら各紹介をしていた。動画・スライドショーは各店舗に設置し、お客様に一人でも目を向けてもらえるように設置場所に配慮した。アンケートについては、紙媒体や、QRコードの読み取りによるお客様自身のスマホによる回答と同時進行なので、今までよりも回答数は増えると考えられる。最近のお店で目にする光景であるが、商品説明や様々な紹介を、タブレットを用いて行うところが増えた。このようなビジネスシーンを今回の商業デパートで実践することができた。

(商品紹介) (店舗案内) (ロボット体験) (事前のレジ練習撮影)



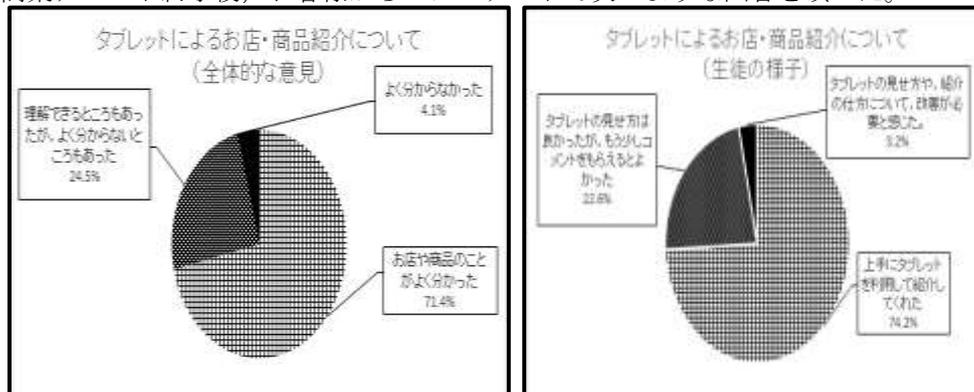
(4) 令和元年11月22日(金)に鹿児島県の家庭科教育学習指導研究会が本校で開催された。本校家庭科職員が研究授業を担当し、タブレット端末やプロジェクタを活用した。グループ学習で実施され、タブレットを配布後、グループごとに学習内容をまとめ、タブレットで静止画撮影したものを他のグループに見せながら本時の学習内容の共通理解を図る活動であった。また、実技を伴うところで事前に動画撮影した内容をプロジェクタで紹介しながら、技術の細かな確認をした。



(左からタブレットによるグループ学習・タブレット内にチェックを付け確認をする)

5. 研究の成果

商業デパート終了後、お客様からのアンケートで次のような回答を頂いた。



今回取り組んだことについては概ね良好と思われるが、タブレットを活用した生徒・職員は初

めての取り組みで、しかもデパートというとても忙しい行事の中での活用であったので、実際のところ、活用に戸惑う場面もあったと思われる。お客様のコメントでは、「素晴らしい取り組み・わかりやすい」など好評な意見を頂いたが、一方で「タブレットを活用する理由がよく分からなかった」と、今後の展望を考えさせる意見も頂いた。しかし、ICTを活用したビジネスシーンの展開を実践できたことで、生徒自身がICTを活用する場面を自ら考え、実践していく能力の育成につながると確信できたと考える。

また、家庭科教育学習指導研究会の研究授業において、職員が積極的にICTを活用し、グループ学習や全体に説明する場面で効果的にタブレットを活用しており、当日参加された県内の各高校の先生方からも大変好評を頂いた。今後も通常の授業などでICTを活用する環境を整備し、従前の一方通行の授業を刷新して、共同学習などのように、主体的・対話的で深い学びを目指す授業を展開できるような、授業力の向上に役立てたい。

6. 今後の課題・展望

今回は、ICTの環境を整備し、市立商業高校の強みを生かした地域貢献の進化を目指し、様々な活動を展開した。これまでも地元出水市との強い連携、本校独自の出水商業デパート、関連する地元企業とのつながり、小中学校とのつながりといった点で市立としての強みを十分生かしているが、そこにICT活用の実践を取り入れ、商業デパートや授業改善を中心に活動の幅を広げた。地域貢献の進化という観点から見て、今回の取り組みはまだまだと感じるところが多い。環境整備と準備計画、これだけでかなり期間を費やしたが、目標である商業デパートでの活用については当初計画してきた通りで実施できたといえる。

今後は地域におけるICT活用の推進実績校として、プログラミング教育導入の好機に、研究成果を本校だけでなく小学校や中学校へICT活用を積極的に呼び掛けていきたい。更には、ICT活用の効果が地域貢献の進化につながるよう、今年度の研究で作り上げたICT環境を継続して活かしていきたい。

7. おわりに

本校のスローガンは『夢をかたちに』である。今回、パナソニック教育財団の助成により研究の機会を頂き、思い描いた新しい試みに挑戦し、かたちを成すところまで取り組むことができた。他の高校と比較してもICTの環境整備が遅れている本校であったが、今回の研究にて、環境整備を段階的に進めることができた。また、研究を進めるにあたり、本校では特別に委員会を立ち上げ、組織的に活動し、成果についても全職員で共有できた。『夢』とは生徒の成長と考える。今回の研究で『夢をかたちに』するための挑戦ができたということで、本研究の締めくくりとする。

